

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月26日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿



提出者

住所 千葉県成田市浅間452番地5

氏名 株式会社ヤマサ成田工場

代表取締役 守谷正明

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

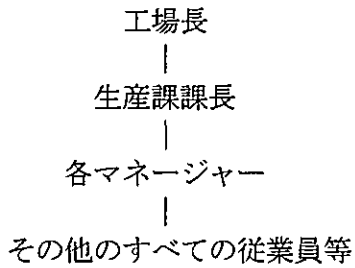
電話番号 0476-49-0095

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社ヤマサ成田工場
事業場の所在地	千葉県成田市浅間452番地5
計画期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：食料品製造業
②事業の規模	前年度の売上額 10億円 (ヤマサ醤油(株)の業務委託契約)
③従業員数	72名 (令和5年6月現在)
④産業廃棄物の一連の処理の工程	(別紙1のとおり)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

別紙2のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 廃プラスチック類において残渣の付着と残渣の付着がないものを、一部分別している。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 実現性については今後の検討となるが、残渣付着の廃プラを洗浄破碎する設備導入

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に無し		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	10840.3 t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 自社の汚泥脱水機により減量を行った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	10765 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 自社の汚泥脱水機による減量を継続して実施		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に無し		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特に無し		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

別紙3のとおり

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

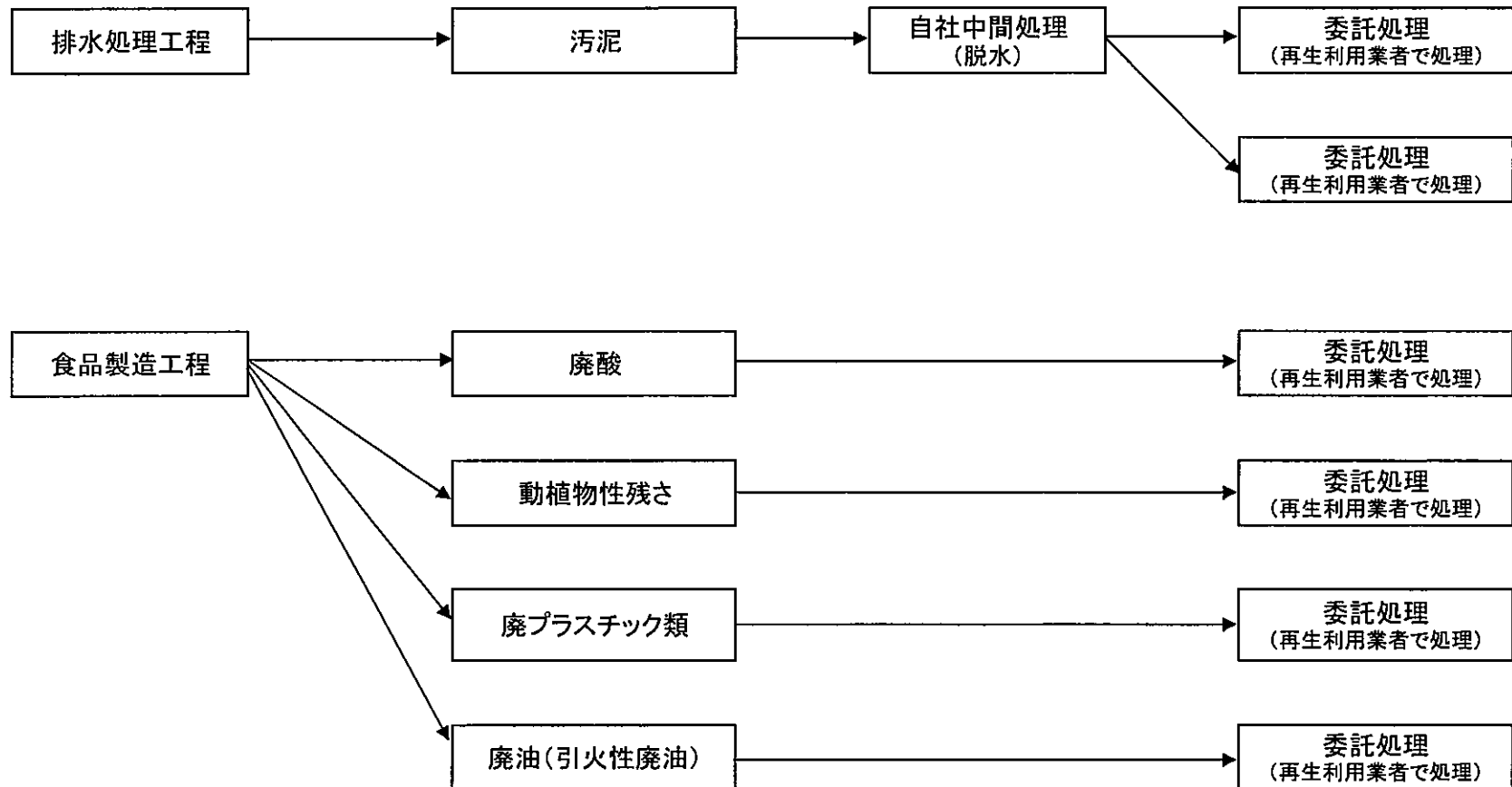
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙1)

産業廃棄物の処理工程



(別紙2)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃酸	廃プラスチック類	廃油(引火性廃油)			
	排 出 量	11,781.5 t	345.7 t	0.0 t	46.0 t	0 t			
	(これまでに実施した取組) ・ 動植物性残渣(だし抽出残渣)を売却可能な新規業者の探索を行う。 (一部の残渣については売却可能な業者と契約を実施、令和4年4月から運用開始)								
②計画	【目標】								
	産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃酸	廃プラスチック類	廃油(引火性廃油)			
	排 出 量	11,700 t	340 t	0 t	45 t	0 t			
	(今後実施する予定の取組) ・引き続き、動植物性残渣(だし抽出残渣)を売却可能な新規業者の探索を行う。 ・実現性については今後引き続きの検討となるが、残渣付着の廃プラを洗浄破碎する設備導入								

(別紙3)

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

		【前年度(令和4年度)実績】							
		産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類				
①現状	全処理委託量	941.2 t	345.7 t	46.0 t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	941.2 t	345.7 t	46.0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組) ・産業廃棄物処理委託業者の施設を定期的に査察して管理状況等についてチェックを行い、査察記録とチェックリストを保存している。(親会社であるヤマサ醤油株式会社の担当部門による)								
		【目標】							
		産業廃棄物の種類	汚泥	動植物性残さ	廃プラスチック類				
②計画	全処理委託量	935 t	340 t	45.0 t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	935 t	340 t	45.0 t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	0 t	t
	・実現性については今後の検討となるが、残渣付着の廃プラを洗浄破碎する設備導入 ・全ての産業廃棄物処理委託業者の施設の定期的な査察と査察記録の蓄積 (親会社であるヤマサ醤油株式会社の担当部門による)								